

# デンソー エコビジョン 2025

- I コミットメント
- II 環境方針
  - ・ターゲット3
  - ・アクション10
- III 環境行動計画(第6次)

# I コミットメント（～2050年）

デンソーグループは、全ての企業行動を通じて、環境・エネルギー問題の解決と自然との共生を図り、2050年の持続可能な地域・社会に向けた、新たな環境価値を創造し、地球を守り、次世代に明るい未来を届けます。

# II 環境方針（～2025年）

コミットメントのマイルストーンとして、2025年に達成すべき「ターゲット3」を定め、具体的な10分野の取り組みである「アクション10」を推進します。

## 【ターゲット3】

エネルギー1/2	地球温暖化やエネルギー・資源問題を解決する技術で、地球環境の永続的な維持に貢献します。
クリーン×2	全てのステークホルダーの皆様に安心して頂けるよう、順法はもとより、継続的改善を進め社会と共に成長する企業であり続けます。
グリーン×2	豊かな自然を次世代に引き継ぐため、自然との共生を目指した企業活動を通して、自然の叡知・恩恵を分かち合う社会を実現します。

## 【アクション10】

「エネルギー」「クリーン」「グリーン」の3軸で10のアクションを定め、製品・工場・社員・経営の視点から全ての事業領域で取り組みます。



### Ⅲ 環境行動計画(第6次) (～2020年)

コミットメント・環境方針を具体化するため、2020年迄の「環境行動計画」を定め、取り組みます。

#### 【エネルギー 1/2】

アクション 10	具体的実施事項・目標													
01 究極の燃費性能	<p><b>【01-1 製品貢献の拡大】</b> 世界に先駆けて、エネルギー消費・CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献する製品を送り出し、くるま社会の環境負荷低減を牽引</p> <p>(1) くるま社会における消費エネルギー1/2に資する世界初の技術・製品開発の促進</p> <p>(2) 燃料多様化(水素・バイオエネルギー等脱化石燃料)に対応する新技術開発の推進</p> <table border="1" data-bbox="432 734 1187 880"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デンソー製品を搭載する新車全体のCO<sub>2</sub>排出量*1</td> <td>グローバル</td> <td>2012</td> <td>▲30%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1 CO<sub>2</sub>排出に直接影響するデンソー製品の責任分の積算量</p> <p><b>【01-2 マイクログリッド技術開発の推進】</b> 自動車分野で培った技術を活用し、エネルギー利用効率最大化に資する技術 HEMS(Home Energy Management System), CEMS(Community Energy Management System)等の開発推進</p>	指標	対象	基準年	20年	デンソー製品を搭載する新車全体のCO <sub>2</sub> 排出量*1	グローバル	2012	▲30%					
	指標	対象	基準年	20年										
デンソー製品を搭載する新車全体のCO <sub>2</sub> 排出量*1	グローバル	2012	▲30%											
02 ミニмум CO <sub>2</sub> モノづくり	<p><b>【02-1 モノづくりCO<sub>2</sub>削減】</b> エネルギーハーフを目指した、生産・物流分野におけるCO<sub>2</sub>削減の推進</p> <p>(1) 生産におけるCO<sub>2</sub>削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設(供給)側から生産(使用)側迄のスルーでの現場省エネ活動の推進</li> <li>・1/N設備*2を含むダントツ工場*3等のモノづくり革新による高効率生産ラインの展開</li> </ul> <p>*2 小型化と加工ラインの改善も含め、組立に応じて生産量(経済単位)を揃えることにより、設置面積、設備費、加工費を大幅に削減する設備。Nは整数倍を意味する</p> <p>*3 生産ラインの高速・高稼働化やコンパクトな独自設備開発、物流・検査のスリム化等により、他を引き離し圧倒的に低い原価でモノづくりをする工場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産変動に追従するエネルギーJIT(Just In Time)活動、全員参加でのエネルギーロスでのミニмум化</li> <li>・高効率コージェネレーション、再生可能な創・蓄エネルギーシステムの導入</li> </ul> <table border="1" data-bbox="432 1783 1187 1980"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">生産CO<sub>2</sub>*4</td> <td rowspan="2">原単位(付加価値額)</td> <td>DNJP</td> <td>2012</td> <td>▲30%</td> </tr> <tr> <td>国内外グループ</td> <td>2012</td> <td>▲40%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*4 エネルギー起源のCO<sub>2</sub>に限る</p>	指標		対象	基準年	20年	生産CO <sub>2</sub> *4	原単位(付加価値額)	DNJP	2012	▲30%	国内外グループ	2012	▲40%
指標		対象	基準年	20年										
生産CO <sub>2</sub> *4	原単位(付加価値額)	DNJP	2012	▲30%										
		国内外グループ	2012	▲40%										

アクション 10	具体的実施事項・目標													
02 モノづくり ミニマムCO <sub>2</sub>	<p>(2) 物流におけるCO<sub>2</sub>削減 ・輸送改善, エコドライブ等による削減</p> <table border="1" data-bbox="432 412 1331 598"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">物流 CO<sub>2</sub></td> <td rowspan="2">原単位 (売上高)</td> <td>DNJP</td> <td>2012</td> <td>▲8%</td> </tr> <tr> <td>国内外グループ</td> <td>-</td> <td>各国トップレベル</td> </tr> </tbody> </table>	指標		対象	基準年	20年	物流 CO <sub>2</sub>	原単位 (売上高)	DNJP	2012	▲8%	国内外グループ	-	各国トップレベル
	指標		対象	基準年	20年									
物流 CO <sub>2</sub>	原単位 (売上高)	DNJP	2012	▲8%										
		国内外グループ	-	各国トップレベル										
03 低炭素なくらし・移動	<p><b>【03-1 くらし・移動エネルギー低減】</b> カーボンニュートラルな生活の実現を目指した, くらし・移動における化石エネルギー使用の低減</p> <p>(1) 低炭素型次世代自動車(PHEV・EV・FCV等), カーシェアリングシステムの導入等による構内・工場間移動における化石エネルギー使用の低減</p> <table border="1" data-bbox="432 909 1177 1055"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構内外移動エネルギー (対象:大規模事業場)</td> <td>DNJP</td> <td>2012</td> <td>▲30%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 家庭でのエネルギーマネジメントや見える化による節電の工夫等, くらしにおけるエネルギー低減</p> <p>(3) 一人ひとりのエコドライブ技術の向上やエコカー活用の促進等による自家用車の使用エネルギー低減</p>	指標	対象	基準年	20年	構内外移動エネルギー (対象:大規模事業場)	DNJP	2012	▲30%					
	指標	対象	基準年	20年										
構内外移動エネルギー (対象:大規模事業場)	DNJP	2012	▲30%											

## 【クリーン×2】

アクション 10	具体的実施事項・目標																												
<b>04</b> <b>ローエミッション エコマテリアル&amp;</b>	<p><b>【04-1 環境負荷物質の管理・削減】</b>            製品の環境負荷物質の世界規制動向を見据え、環境負荷最小化を通じて全てのステークホルダーに安心を届ける活動を推進</p> <p>(1) グローバル規模の環境負荷物質規制への積極的な切り替え推進            (2) 製品含有有害物質削減活動の見える化による一層の信頼獲得            (3) 規制物質削減の更なる円滑・適切な推進を目指し、サプライチェーン管理を一層充実させたグリーン調達体制の構築            (4) 各国各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減技術開発の継続推進</p>																												
<b>05</b> <b>ミニマム環境負荷生産</b>	<p><b>【05-1 資源有効利用の促進】</b>            循環型社会への貢献に向けた生産及び物流における資源有効利用の向上</p> <p>(1) 排出物の削減            ・革新技術の開発・導入や歩留り向上等、排出物削減の推進</p> <table border="1" data-bbox="432 1059 1406 1245"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">排出物</td> <td>原単位 (付加価値額)</td> <td>DNJP</td> <td>2003</td> <td>▲47%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>国内外グループ<sup>o</sup></td> <td>-</td> <td>各国トップレベル</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 廃棄物の削減(ゼロエミアドバンス)            ・資源のさらなる有効利用に向けたリサイクルの質向上            (マテリアルリサイクル化等)</p> <table border="1" data-bbox="432 1451 1406 1653"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">廃棄物</td> <td>原単位 (付加価値額)</td> <td>DNJP</td> <td>2012</td> <td>▲25%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>国内外グループ<sup>o</sup></td> <td>-</td> <td>各国トップレベル</td> </tr> </tbody> </table>	指標		対象	基準年	20年	排出物	原単位 (付加価値額)	DNJP	2003	▲47%		国内外グループ <sup>o</sup>	-	各国トップレベル	指標		対象	基準年	20年	廃棄物	原単位 (付加価値額)	DNJP	2012	▲25%		国内外グループ <sup>o</sup>	-	各国トップレベル
指標		対象	基準年	20年																									
排出物	原単位 (付加価値額)	DNJP	2003	▲47%																									
		国内外グループ <sup>o</sup>	-	各国トップレベル																									
指標		対象	基準年	20年																									
廃棄物	原単位 (付加価値額)	DNJP	2012	▲25%																									
		国内外グループ <sup>o</sup>	-	各国トップレベル																									

(3) 埋立廃棄物ゼロ(ゼロエミ)  
・ゼロエミ\*5の達成・維持

指標		対象	基準年	20年
埋立 廃棄物	排出量	DNJP・ 国内 グループ°	1999	ゼロエミ 維持
		海外 グループ°	1999	ゼロエミ 達成

\*5 埋立廃棄物を1999年比99%以上削減

(4) 物流における梱包包装材削減

・包装仕様のスリム化, リターナブル容器の拡大等による梱包包装材購入重量の削減

指標		対象	基準年	20年
梱包 包装材	原単位 (売上高)	DNJP	2012	▲8%
		国内外 グループ°	-	各国トップレベル

【05-2 水資源保全を通じた地域貢献】

各国各地域の水環境事情を考慮した, 水使用量削減活動等の推進

(1) 水マネジメントの展開

・グローバルに水を通じた地域の安心度向上に向け, 水使用実態, 水リスクの把握を行うとともに, 地域ニーズに応じた非常用の水資源の確保, 雨水の利用等を積極的に展開

(2) 水使用量の削減

・工程改善(無洗浄化等), 水JITの拡大や排水再利用等による水使用量の削減

指標		対象	基準年	20年
水	原単位 (付加価値額)	DNJP	2015	▲2.5%
		国内外 グループ°	-	各国トップレベル

アクション 10	具体的実施事項・目標								
05 ミニマム環境負荷生産	<p><b>【05-3 環境負荷物質のリスク削減】</b>            新技術開発(レス化・代替化), 使用量最適化, 回収・再利用等による, 環境中に排出される化学物質のリスクを削減</p> <p><b>【05-4 各国各地域の独自の取り組み】</b>            各国各地域特有の課題に対する取り組みを推進</p> <p>〈推進項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VOC (Volatile Organic Compound) 規制対応</li> <li>・エネルギー起源以外の温室効果ガス(半導体製造用ガス) *6の削減                *6 PFCs, HFCs, SF<sub>6</sub> 等</li> <li>・大気(PM<sub>2.5</sub> 他) 等</li> </ul>								
06 環境意識・知識・スキル	<p><b>【06-1 環境教育の拡充】</b>            デンソーグループ社員一人ひとりが, 「地球環境の維持」にこだわり, 私たちの使命として, それぞれの持ち場・立場で, 持続可能な社会を目指した行動を自ら実践していけるよう, 環境教育を拡充</p> <p>(1) 環境スタッフの技術力強化</p> <table border="1" data-bbox="429 1339 1179 1449"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S級等認定者数</td> <td>グローバル</td> <td>2015</td> <td>1.5倍</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 製品設計関係者(営業等含む)のライフサイクル視点に基づく業務遂行能力の強化</p> <p>(3) 環境業務従事者の環境設備・作業リスクの知識・対応力強化</p> <p>(4) トップ・管理職の環境リーダーシップ向上</p> <p>(5) デンソーグループ社員一人ひとりへの環境意識向上施策の強化</p>	指標	対象	基準年	20年	S級等認定者数	グローバル	2015	1.5倍
指標	対象	基準年	20年						
S級等認定者数	グローバル	2015	1.5倍						

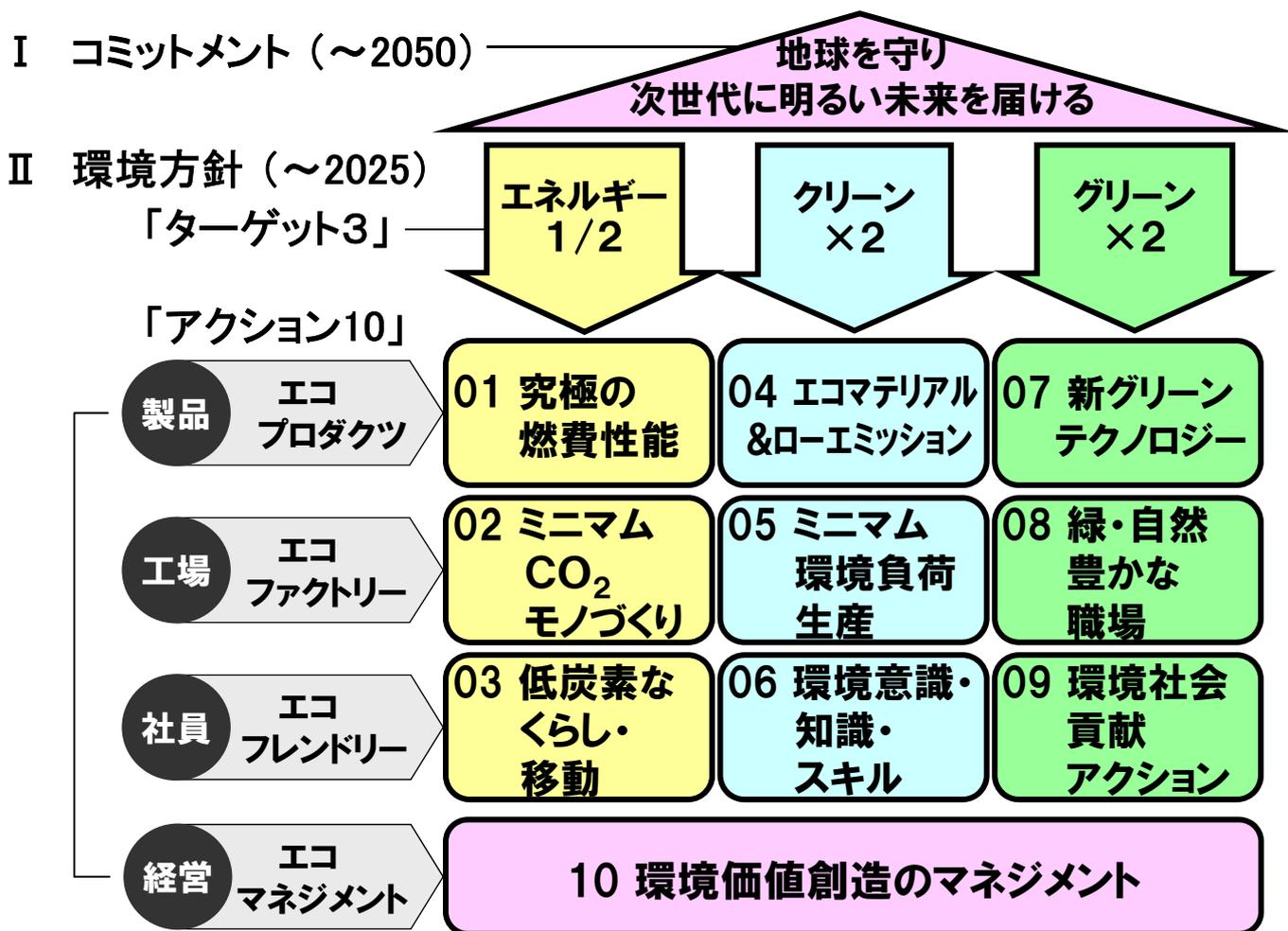
## 【グリーン×2】

アクション 10	具体的実施事項・目標								
<b>07</b> <b>新グリーン</b> <b>テクノロジー</b>	<p><b>【07-1 グリーン環境事業の推進】</b>            地球環境を維持し、持続可能で豊かな未来を技術で支え、新規事業化を通して社会に貢献</p> <p>(1) 食糧生産と直接的な競合のない微細藻類を活用した事業展開及びバイオ燃料研究の継続推進</p> <p>(2) 自動車分野で培ったデンソーの技術を活用した農業支援事業の展開</p> <p>(3) 冷凍機技術を活用した食品輸送合理化システム開発の推進</p> <p>(4) 再生可能なバイオ資源(サステナブルグリーンマテリアル)の開発、活用の推進</p> <p>(5) 資源有効活用・リサイクル技術開発の推進</p> <table border="1" data-bbox="432 757 1177 869"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グリーン環境関連事業規模</td> <td>DNJP</td> <td>2014</td> <td>1.5倍</td> </tr> </tbody> </table>	指標	対象	基準年	20年	グリーン環境関連事業規模	DNJP	2014	1.5倍
指標	対象	基準年	20年						
グリーン環境関連事業規模	DNJP	2014	1.5倍						
<b>08</b> <b>緑・自然</b> <b>豊かな職場</b>	<p><b>【08-1 工場緑化の推進】</b>            地域と調和し、お客様に安心・共感され、社員が気持ちよく働ける緑化施策の推進</p> <p>(1) 緑豊かな工場づくり</p> <table border="1" data-bbox="432 1048 1299 1196"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊かな緑評価指数<sup>*7</sup></td> <td>DNJP</td> <td>2012</td> <td>2倍</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*7 デンソー独自の評価指数を策定し、緑化を評価</small></p>	指標	対象	基準年	20年	豊かな緑評価指数 <sup>*7</sup>	DNJP	2012	2倍
指標	対象	基準年	20年						
豊かな緑評価指数 <sup>*7</sup>	DNJP	2012	2倍						
<b>09</b> <b>環境社会貢献</b> <b>アクション</b>	<p><b>【09-1 環境社会貢献と人づくり】</b>            グリーン&amp;クリーンなコミュニティづくりと、自然を大切に思い行動できる人づくりの促進</p> <p>(1) “グリーン&amp;クリーン”をテーマとしたOne DENSO Actionのグローバル展開</p> <table border="1" data-bbox="432 1435 1177 1583"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>基準年</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>One DENSO アクション参加会社数</td> <td>グローバル</td> <td>2014</td> <td>1.5倍</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 社内外の多様な生態系(社有林、緑地、ビオトープ等)を活用した自然保護・生物多様性保全活動の推進と自然を想うマインドの醸成</p> <p>(3) 各地域・事業所における、地域住民・次世代の子供たちへの環境教育を通じた社員の環境意識向上・行動促進</p>	指標	対象	基準年	20年	One DENSO アクション参加会社数	グローバル	2014	1.5倍
指標	対象	基準年	20年						
One DENSO アクション参加会社数	グローバル	2014	1.5倍						

## 【エネルギー1/2, クリーン×2, グリーン×2】

アクション 10	具体的実施事項・目標								
10 環境価値創造のマネジメント	<p><b>【10-1 環境と経営の一体化】</b>            デンソーEMS(Environment Management System)と初期流動管理*8を融合させ、ライフサイクル視点により、デンソーグループ社員一人ひとりが地球環境を改善し環境経営を強化</p> <p>*8 製品の企画-設計-生産迄の過程において、品質のつくり込みを確実にするためのしくみ</p> <p>(1) デンソー製造EMSの充実とグローバル展開            ・デンソーグループとして共通して取り組むべき環境活動を見える化し、製造面における継続的改善を促進</p> <p>(2) デンソー製品EMSの構築            ・環境配慮型設計による源流からの環境負荷低減</p> <p>(3) 企業活動全体での環境価値の見える化            ・企業活動が及ぼす環境負荷・貢献度をライフサイクル視点で評価・把握し、地球環境保護への付加価値を提示</p> <table border="1" data-bbox="430 896 1316 1030"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>20年</th> <th>25年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地球・社会への貢献度</td> <td>グローバル</td> <td>-</td> <td>貢献度 &gt; 負荷量</td> </tr> </tbody> </table>	指標	対象	20年	25年	地球・社会への貢献度	グローバル	-	貢献度 > 負荷量
	指標	対象	20年	25年					
	地球・社会への貢献度	グローバル	-	貢献度 > 負荷量					
<p><b>【10-2 環境リスクのミニマム化】</b></p> <p>(1) 環境コンプライアンス徹底            ・環境リスク低減活動を通じたコンプライアンスの徹底</p> <table border="1" data-bbox="430 1176 1145 1299"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>対象</th> <th>20年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境違反・異常件数</td> <td>グローバル</td> <td>0件の維持</td> </tr> </tbody> </table>	指標	対象	20年	環境違反・異常件数	グローバル	0件の維持			
指標	対象	20年							
環境違反・異常件数	グローバル	0件の維持							
<p><b>【10-3 情報発信】</b>            あらゆるステークホルダーに向けた環境関連情報の積極的な開示</p> <p>(1) 冊子、レポート、インターネット等による環境CSR情報の積極的な発信と、地域社会や有識者との双方向コミュニケーションを通じた環境取り組みの推進</p> <p>(2) LCA(Life Cycle Assessment)*9に基づき、事業活動(サプライチェーン、製品の使用、廃棄リサイクル含む)の環境貢献度を見える化し発信</p> <p>*9 製品の生涯(材料製造→部品製造→製品製造→使用→廃棄・リサイクル)にわたる環境影響量を把握し評価する手法</p>									

# 【参考】デンソーエコビジョン2025 全体構成



## III. 環境行動計画（第6次）（～2020）

コミットメント・環境方針を具現化するための16項目の具体的な取り組み